MJ Audio Brand Around

第6回

MJオーディオブランド・アラウンド

フェーズメーション

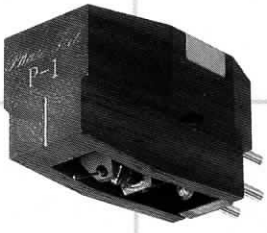
井上千岳 INOUE Chitake

電子計測器とカーエレクトロニクスで起業

フェーズメーション（旧フェーズテック）は2002（平成14）年に設立されているから，わが国のハイエンドブランドとしてはかなり新しい存在である．にもかかわらず現在では，日本を代表するオーディオメーカーとして強固な位置を確立している．実際，この13年間に同社の果たしてきた役割は，どこにも負けないほど大きい．

会社としての母体は協同電子エンジニアリング（株）である．しかし，そのまた前身は共同電子システム（株）といって，1970年に有限会社として発足した．創立者は，共同電子エンジニアリングの現会長鈴木信行氏である．鈴木氏はアイワ（株）を退職して同社を立ち上げ，電子計測器とカーエレクトロニクスの開発を行って業績を上げてきた．

このカーエレクトロニクスには，カーオーディオやカーナビなどが含まれる．2004年にこの分野を独立させて分社を行い，共同電子エンジニアリング（株）となった．その2年前にオーディオブランドは立ち上がっていたが，この年から同社のオーディオ部門となったわけである．もちろん，鈴木氏が会長として今も牽引している．



紫檀切削ボディを採用した低インピーダンス型MCカートリッジP-1とP1-G（生産終了）

ジュラルミン切削ボディを採用した低インピーダンス型MCカートリッジPP-1000

位相の揃ったステレオフォニックを追求

フェーズメーションはフェーズ，つまり位相とインフォメーションをつなげた造語だという．当初はフェーズテックというブランド名を使っていたが，ある時期から世界共通ブランドとしてのフェーズメーションに統一されることになった．現在フェーズテックブランドの製品はすべて生産終了している．

フェーズ＝位相という言葉には，鈴木会長の音に対する強い指向が込められている．同氏のwebコラムから少し借用すると，「低音だ，高音だ，ノイズだ」という前にステレオでなければならないという．スピーカーの間にステージが見通せるような空間ができる．それが実現すれば必然的に音はよくなるというのが，鈴木氏の主張のようである．

そのためには，位相が正しく揃っていなければならない．左右の位相だけでなく帯域間の位相，アンビエンスとの位相．それは単なる正相・逆相と言う問題ではなく，群遅延特性と言うべきかもしれないが，それが揃っていれば悪い音は悪いなりに，音だけがぽっかりと浮かぶようになる．鈴木氏がいうのはそういうことであろうと考えられるが，まったく正しい指摘である．そして，この位相ということが軽視されているか，聴いてもわからないか，そういうケースが意外に

アルミ定盤シャシーを採用したCDトランスポートCT-1（生産終了）

トランスと抵抗器を組み合わせたアッテネーターを搭載した真空管ラインコントロールアンプCA-1（生産終了）

トランスと抵抗器を組み合わせた低損失アッテネーターCM-1000

真空管アンプを作りつつ，MCカートリッジでオーディオのメジャーシーンに参入したフェーズメーションは，今やアナログオーディオ機器を数多くラインアップする高級オーディオブランドとなった．アナログオーディオを究めようとする，創業者の強い信念をもって真のステレオ再生に取り組んでいる，貴重な存在だ．

●資料請求先
協同電子エンジニアリング
株式会社
〒224-0053
横浜市都筑区池辺町4900-1
TEL 045-934-5234
http://www.phasemation.jp/

多いのも事実だ．フェーズメーションというブランド名には，だから鈴木会長のオーディオに対する根本的な意識が強く表れているといっていい．

振動対策を施した製品群

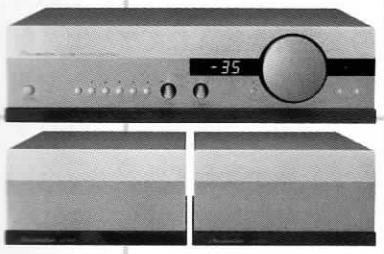
最初の当該ブランド製品は，MC型カートリッジP-1である．翌年にはCDトランスポートCT-1が発売された．この2モデルを見てみると，振動に対する配慮が大きな比重を占めているように思われる．カートリッジでは磁気回路パーツをステンレスベースに乗せ，これを紫檀のボディに取り付けるという二重の振動吸収が行われているし，トランスポートではアルミブロック削り出しの定盤シャシーから主要部品を吊り下げ，真鍮丸棒の支柱のようなフットで支えてメカニカルアースを確立する．このメカニカルアースの徹底という設計手法はこの後もさまざまな製品に適用され，無共振・無振動というポリシーの実現に大きく貢献することとなった．

カートリッジの構造はオーソドックスなオルトフォン型だが，P-3，P-3G，P-1Gとバージョンを重ねるごとに独自の進化を遂げ，2011年発売のPP-1000ではひとつの頂点に達している．磁気回路も素材から見直し，ベースやボディについてもDLC加工など無共振化を徹底して，一分の隙もない設計となった．ジュニア機PP-300，モノ用PP-MONOとラインアップが揃い，アナログメーカーでは世界有数の企業と呼んでおかしくない．昇圧トランスやフォノイコライザーなども含めて，その存在感はきわめて大きい．

真空管アンプにも注力

もうひとつ同社が力を入れてきたのが，元々少量生産していた真空管アンプである．フォノイコライザーもそうだが，2006年発売のコントロールアンプCA-1以来真空管式が貫かれ，集大成モデルとしてCA-1000を完成させた．パワーアンプでは現在モノーラルのMA-1およびMA-1000がラインアップされているが，いずれも全段3極管による無帰還という構成が特徴的だ．このため信号のエネルギーが損なわれず，音楽のダイナミズムが無際限のように広い．このジャンルについても長年の研究・開発の経緯があり，その成果としての今日がある．

このほか，意外なジャンルとしてD/Aコンバーターなどデジタル関連にも意欲的な製品が用意されているが，ここでは深くは立ち入らない．アナログと真空管を軸にオーディオに新たな光を当てて着実に進化させてきた同社の存在は，これからもますます重いものとなっていくに違いない．



真空管ラインコントロールアンプCA-1000は，左右独立のアンプ部と，電源部内蔵のコントロール部からなる3ピース構成

左右独立アンプ部と電源部の3ピース構成を持つ真空管フォノEQアンプEA-1000

300Bドライブ845シングルモノーラルパワーアンプMA-1

2A3-40シングルモノーラルパワーアンプMA-1000